

看護倫理委員会の活動報告

The activity report of the nursing ethics committee

看護部倫理委員会 関 浩美、伊藤寿満子、塩原まゆみ
由上恵子、小林直子、斉藤明子
中西美佐穂、山下浩美、紅谷順子

<要旨>

倫理の事例検討会を積み重ねる事で、倫理的問題を身近に考えられる力を養う事ができ、自らが判断・決定できる自律した看護師の育成につながった。

更に職場の風土作りも重要であり、倫理的意思決定の方法を体験する事例検討会を積み上げる事が看護倫理の浸透に有効かつ意義あると考える。

<キーワード>

倫理的に考える力・自律した看護師の育成・職場風土

1. はじめに

看護倫理委員会では、倫理的感性を養い看護師の自律をうながす事を目的に平成 15 年から 4 年間事例検討会の開催を中心に活動してきた。

今回、委員会としての今後の活動の方向性を探るため、倫理の浸透度についての意識調査と、倫理的問題に直面したときの対処方法について知ることを目的に調査を行ったので、その結果について報告する。

2. 方法

2006 年 12 月中旬に全看護職員を対象にアンケート調査を実施した。倫理的配慮として個人が特定されないように、所属部署・氏名の記載は行わずナンバリングで処理し、データ管理を行った。

3. 結果

①年齢構成 (図1)

配布枚数は469枚で、回収数は393枚、回収率は84.2%だった。年齢構成の内訳は20代が54%と一番多かった。

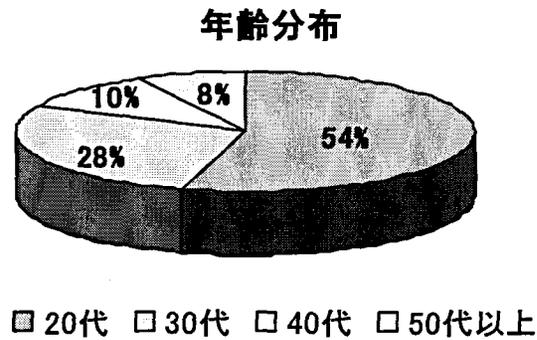


図1 アンケート回答者の年齢分布

②倫理綱領を読んだ事がある (図2)

委員会では様々な検討会の機会を通じて看護倫理綱領を読む機会を設けている。しかし、これまでに倫理綱領を読んだ事のないと回答した人は174人おり、30代では49%が読んでいなかった。

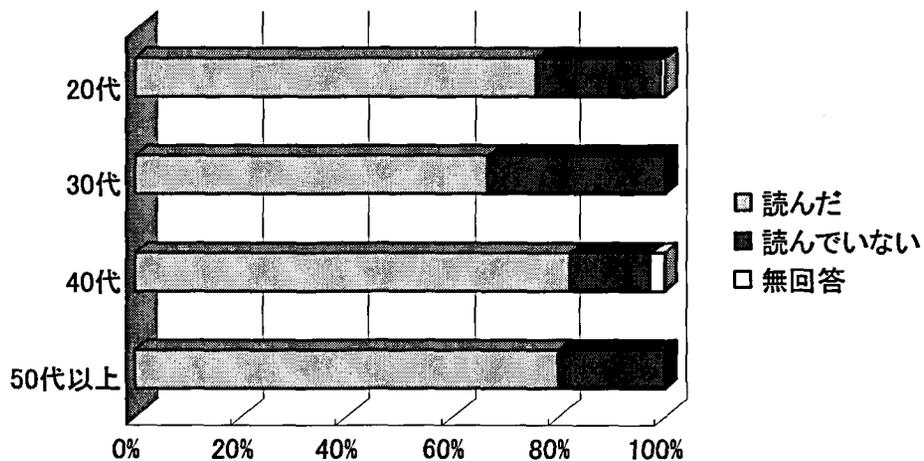


図2 倫理綱領を読んだことがあるか

③倫理的問題に直面した事がある (図3)

これまでに倫理的問題に直面した事があると回答した人は323人で、年代別では各年代別ともに80~90%だった。

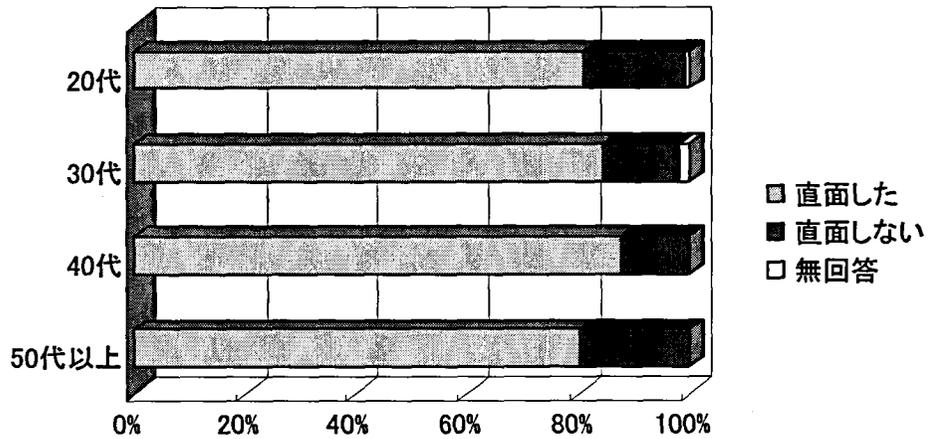


図3 倫理的問題に直面したことがあるか

④倫理的問題で悩んだ事がある (図4)

倫理的問題で悩んだ事があると回答した人は311人で、各年代ともに80%だった。

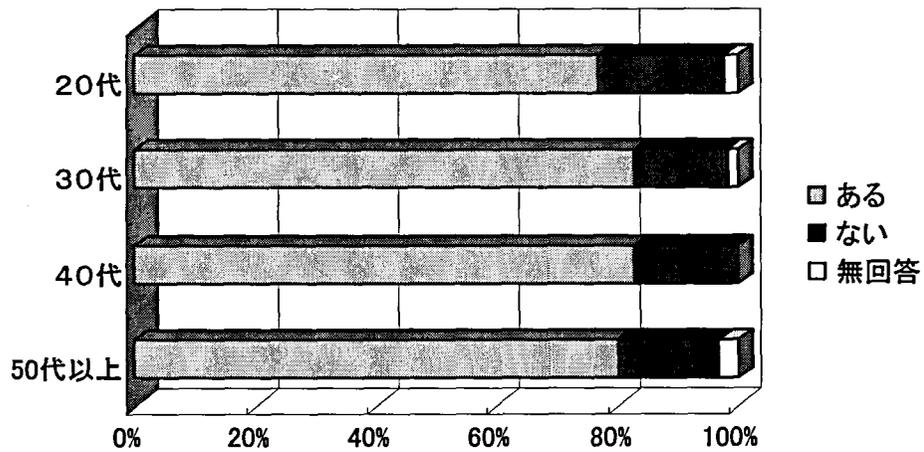
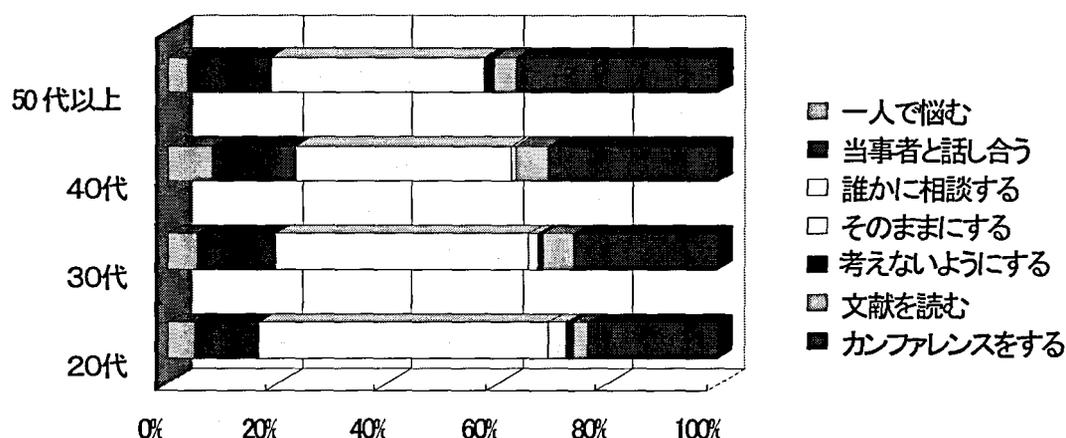


図4 倫理的問題で悩んだ事があるか

⑤倫理的問題で悩んだ時の解決策 (図5)

倫理的問題で悩んだ時の解決策として実践している事は、「一人で悩まず誰かに相談する」が324人と各年代とも一番多かった。ついで、「カンファレンス・病棟会で提案する」が178人だった。また、人に相談するばかりでなく、当事者と話し合うという解決方法を選択する看護師も88人いた。しかし、20~30代に「一人で悩む」30人、「そのままにする」14人、「考えないようにする」7人、という解決策を選択している看護師もいた。

図5 倫理的問題で悩んだ時の解決策



⑥誰に相談する (図6)

倫理的問題に悩んだ時に相談できるかという問いに対して、「相談できる人がいる」と答えた人はほぼ全員の97.7%であり、その相談相手は「自部署のスタッフ」と答えていた。

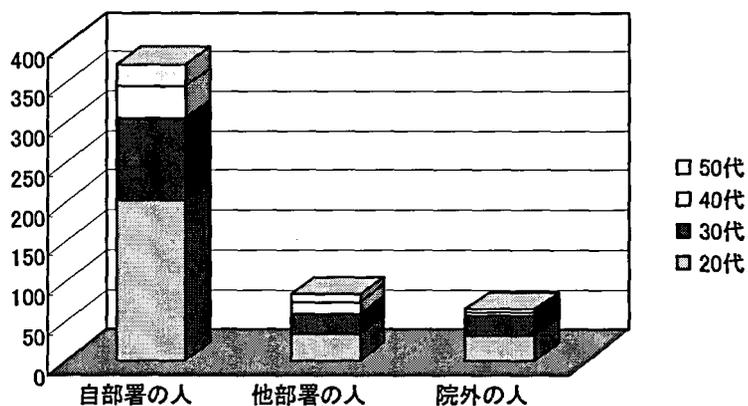


図6 誰に相談するか

⑦部署で倫理的問題を話し合ったことがある (図7)

部署で倫理的問題を話し合ったことがあると回答した人は、72.7%だった。年代別にみると30代、50代の人に倫理的問題を話し合ったことがないと回答している。

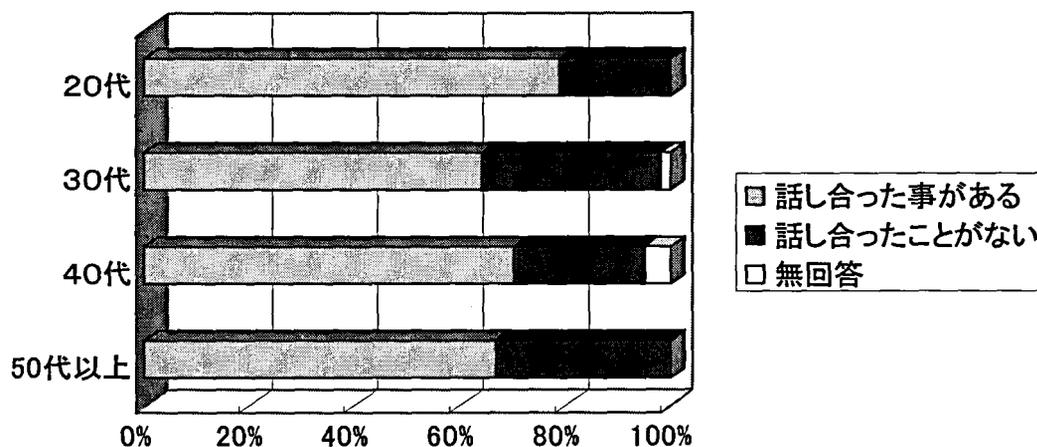


図7 部署で倫理的問題を話し合ったことがある

⑧倫理委員会主催の事例検討会に参加したことがある (図8)

これまでに看護倫理委員会主催の事例検討会に参加したことがあると全体の半数の人が回答していた。年代別にみると、20代で40%と少なく、30代、40代と増加している。

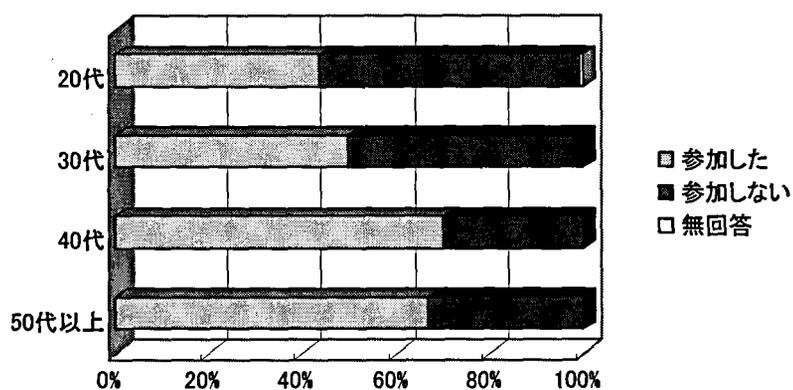


図8 倫理委員会主催の事例検討会に参加したことがある

⑨ 検討会で話し合われた事が日常の看護実践に役立っているか (図9)

倫理事例検討会で話し合われたことは、日常の看護実践に役立ったと各年代とも70%前後の人が回答しているが、30代の看護師においては「役に立たない」と考えている人が多かった。自由記載の中には「自分で気づかなかったことに気づかされるよい機会になった」「同じような場面に遭遇した際、考えるのにとっても役に立った」などの意見もあった。しかし、「どうすることが良かったのか明確にして欲しい」と具体策や答えを求める意見もあった。

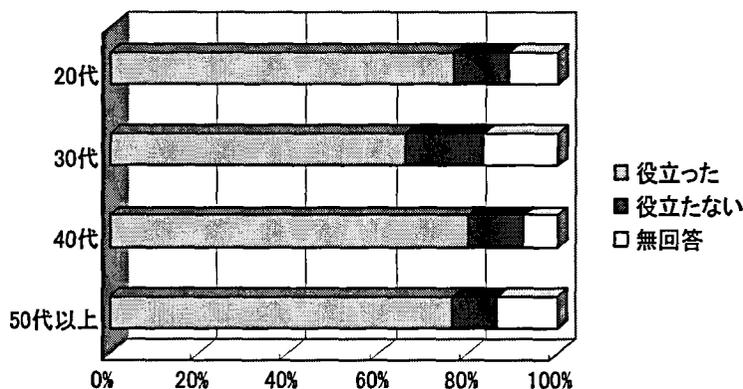


図9 検討会で話し合われた事が日常の看護実践に役立っているか

4. 考察

今回の調査で、倫理綱領を読んだ事がないと答えたのは30代が最も多かった。その背景には30代前後の看護師は学校教育でも、現任教育でも看護倫理を学ぶ機会が少なく、また結婚・育児などライフスタイルの特徴も関係していると考えられる。しかし、その行動で自立度をはかる事は、今回のアンケート調査では明確にはわからなかった。

また、実践の場で悩んだことがある人は80%おり、それを倫理的問題と認識することができ、部署内で相談し話し合える職場風土があると推測される。

現在の医療を取り巻く環境から、倫理的問題に直面し悩む場面が多いと考えられる。看護倫理委員が事例検討会を開催し、また病棟での事例検討会を促すことで、倫理的問題や看護倫理について考えることに役立っているのではないかと考える。

5. 今後の課題

今後の倫理委員会の課題として、30代の看護師中心に倫理綱領を読んだことのない人や、事例検討会に参加したことのない人達への働きかけが必要と考える。

また、事例検討会が日常の看護実践に役立たないと考えている看護師がいることは、看護倫理の特徴として、解決策が一つでないためと考えられる。看護倫理の事例検討会は、解決策を提示するものではなく、いろいろな人の立場に立って物事を考えることができ、意見交換をし、それぞれの考えを理解し、その事例にとって最も良い方法を話し合いで探していく場であることを発信していきたい。

事例検討会への要望として、「看護師以外の職種と共に考える機会が必要」という意見もあり、他職種との合同事例検討会も開催していきたい。

参考文献

- 1) 日本看護協会 看護者の倫理綱領
- 2) 西又玲子他：A大学病院看護倫理委員会の事例検討会の歩み 第35回看護管理 2004年 P72-74
- 3) 阪従圭子他：倫理的感受性を高めるためのプランニング視標の検討 第35回看護管理 2004年 P75-